

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立築瀬小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 84人

② 算数 84人

③ 理科 84人

5 留意事項

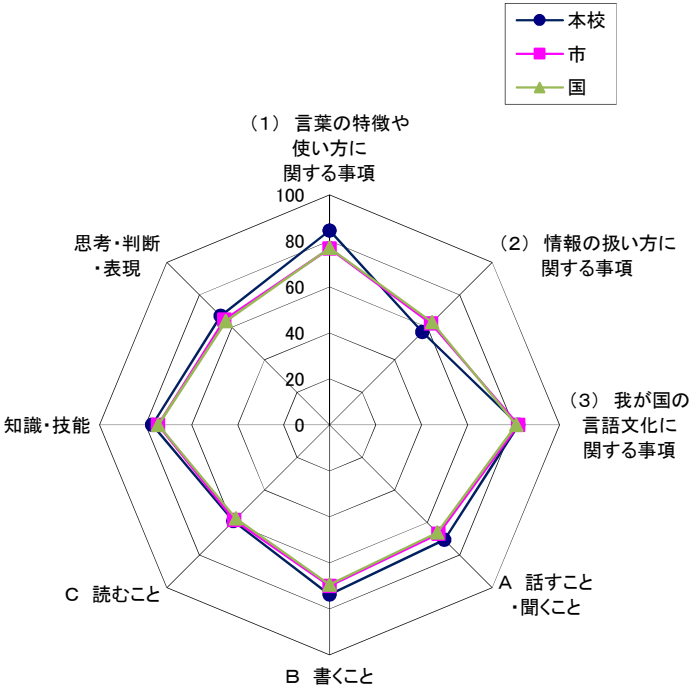
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立築瀬小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	84.5	76.7	76.9
	(2) 情報の扱いに関する事項	57.1	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.1	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	70.6	67.0	66.3
	B 書くこと	73.8	70.0	69.5
	C 読むこと	59.2	58.6	57.5
観点	知識・技能	77.1	74.5	74.5
	思考・判断・表現	67.0	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

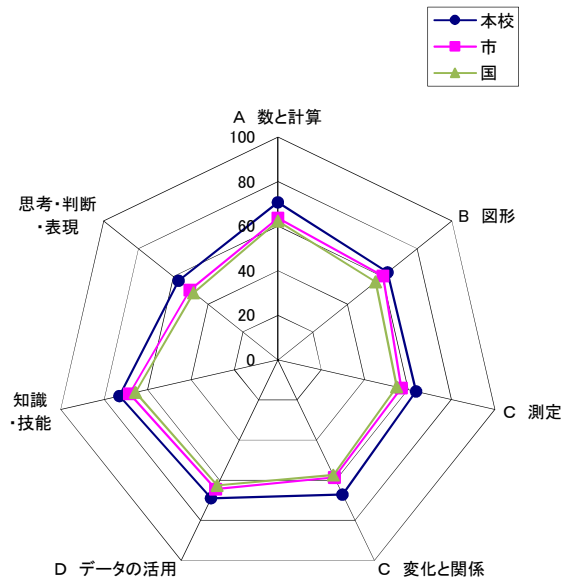
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は84.5%で、全国平均と比べて7.6ポイント上回った。 ○漢字を文中で正しく使うことに関する設問では、いずれも国の平均を上回っている。特に、文章の前後から内容を読み取り、正しい漢字を書く設問では、平均正答率が85.7%と、国の平均を13.6ポイント上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きにおいては、引き続き指導し、さらに力を伸ばしていきたい。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は57.1%で、全国平均と比べて6ポイント下回った。 ●情報と情報とを関連付けたり、図などで関係を表したりしながら説明することにおいて課題が見られる。	・授業の中で話し合ったことを言葉で整理したり、図で表したりする活動を日頃から取り入れるようにしていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は82.1%で、全国平均と比べて0.9ポイント上回った。 ○時間の経過による言葉の変化や、世代による言葉の違いに気づき、正しく説明する設問において、国の平均を上回っている。また、無回答率も0%であった。	・説明文の中で、要旨をまとめる作業を今後も継続して行っていくとともに、会話文においても同様の作業に取り組んでいく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は70.6%で、全国平均と比べて4.3ポイント上回った。 ○●「話し合いの様子から発言者の意図を捉える」項目については、全国平均を16.9ポイント上回っているが、「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」項目については、全国平均を7ポイント下回った。	・国語だけでなく学級活動の話し合いなどを通して、目的に沿って話し合いを円滑に進めるためのスキルを身に付けていく。
B 書くこと	平均正答率は73.8%で、全国平均と比べて4.3ポイント上回った。 ○「調べたことを基に詳しくまとめる」項目では、全国平均と比べて8.9ポイント上回った。	・条件に合わせて自分の考えを書くことができるように、段落や字数などの条件に合わせて書く学習を意図的に行う。 ・国語だけでなく、総合的な学習の時間などにおいて、調べたことを文章にまとめる活動を充実させていく。
C 読むこと	平均正答率は59.2%で、全国平均と比べて1.7ポイント上回った。 ○「時間や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉える」項目では、全国平均と比べ2.9ポイント上回った。 ●「文章全体の構成を捉えて要旨を把握する」項目では、平均正答率が48.8%と低い。	・説明文の読み取りにおいて、文章の中で各段落がどのように結びついているか、全体としてどのような意味を成しているかを理解できるように丁寧に指導していく。

宇都宮市立築瀬小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	70.7	63.6	62.3
	B 図形	63.1	60.4	56.2
	C 測定	63.7	56.9	54.8
	C 変化と関係	67.1	58.6	57.5
	D データの活用	69.0	64.4	62.6
観点	知識・技能	72.9	68.3	65.5
	思考・判断・表現	57.0	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

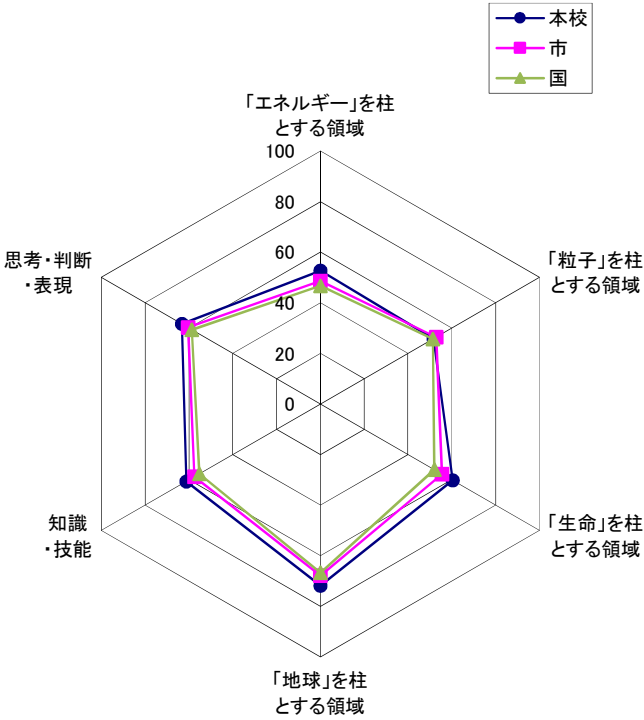
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は70.7%で、全国平均と比べて8.4ポイント上回った。 ○すべての問題で全国の正答率を上回った。特に示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算する問題では、正しく答えられた児童は82.1%で、全国平均より7.6ポイント上回った。 ●分数の加法について数や言葉を用いて記述する問題では、正答率は29.8%で全国の正答率より6.8ポイント上回ったが、無解答率が17.9%であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・問題の意味を正しく読み取ったり、分数の仕組みについて、考える時間を設け、全体でも確認していく。
B 図形	平均正答率は63.1%で、全国平均と比べて6.9ポイント上回った。 ○平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する問題では、正しく答えられた児童は65.5%で、全国平均より7.2ポイント上回った。	・図形に対する感覚を豊かにするために、色板並べやパズル等、学年の発達段階に合わせた学習を適宜取り入れる。 ・図形の学習に入る前には、既習事項を確認し、基礎基本の定着を図る。 ・基本的な問題に加え、発展的な問題に取り組ませることで、力を高めていく。
C 測定	平均正答率は63.7%で、全国平均と比べて8.9ポイント上回った。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する問題では、正しく答えられた児童は、59.5%で、全国平均より10.8ポイント上回った。 ●はかりの目盛りを読む問題では、正答率は67.9%で全国平均より7ポイント上回ったが、無解答率が6.0%であった。	・既習事項を確認し、基礎基本の定着を図る。 ・実生活と結び付けた活動を取り入れ、知識の定着を図っていく。
C 変化と関係	平均正答率は67.1%で、全国平均と比べて9.6ポイント上回った。 ○すべての問題で全国の正答率を上回った。特に、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出す問題では、正しく答えられた児童は89.3%で、全国平均より6.5ポイント上回った。 ●「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表す問題では、正答率は52.4%で全国平均より11.5ポイント高かったが、無解答率が6.0%であった。	・実生活と結び付けた活動を取り入れ、知識の定着を図っていく。 ・式の説明を書かせる際に、例文を示したり、定型文などを用いさせたりして、考えを表現する方法を身に付けさせたい。
D データの活用	平均正答率は69%で、全国平均と比べて6.4ポイント上回った。 ○すべての問題で全国の正答率を上回った。特に、簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶ問題では、正しく答えられた児童は78.6%で、全国平均より7.0ポイント上回った。 ●目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題では、正しく答えられた児童が38.1%と低かった。	・どのグラフから情報を読み取ったのか、根拠を明確にしたり、読み取った情報と関連付けたりして考え、順を追って丁寧に読み取る活動を行うようにする。

宇都宮市立築瀬小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	52.7	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	51.6	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	60.4	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	71.8	67.9	66.7
観点	知識・技能	61.2	57.5	55.3
	思考・判断・表現	63.2	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は52.7%で、全国平均と比べて6ポイント上回った。 ○電磁石において、巻数によって磁力が変わることの知識を問う問題では、正答率が82.1%と、8割をこえる正答率である。 ○乾電池のつなぎ方の知識を問う問題では、正答率が73.8%で、全国平均を18.7ポイントも上回っている。 ●身の周りの金属についての性質を問う問題では、本校の正答率は14.3%と、かなり低い結果となった。 ●無回答率は低いため、「何か書こう」という意識はもつことができている。	・電磁石における巻数の知識や、乾電池のつなぎ方の知識などが身に付いているため、実際に実験をしたり遊んだりする経験が生かされていると考えられる。今後も続けていきたい。 ・金属の性質については、似ているものや紛らわしいものも多く、分類をして図や表にまとめたり、実際に体験をしたりしながら、整理して学習できるようにしたい。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は51.6%で、全国平均と比べて0.2ポイント上回った。 ○実験の方法が適切だったかどうかを検討し、表現する問題では、全国平均を3ポイント上回っている。 ●水が氷に変わる温度を根拠に、海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現する問題では、全国平均を3.8ポイント下回っている。 ●全体的に正答率が低い。原因として、読むべき問題文が非常に多いということが考えられる。	・実験の方法を吟味するところはよくできていたため、実験をしながら意見を交流したり、全体で結果を検討する活動がよかったと考えられる。今後も続けていきたい。 ・基本的な知識が身に付いている一方、問題文が長くなった際に正答率が下がってしまうことを考えると、応用問題や中学入試の過去問など、知識を活用する問題に多く取り組みながら、練習していくとよいと考えられる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は60.4%で、全国平均と比べて8.4ポイント上回った。 ○ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかを問う問題では、平均正答率が85.7%で全国平均を15ポイント上回っている。 ●レタスの種子の発芽の条件について、相違点や共通点を基に、見出した問題について書く設問では、本校の正答率は39.3%と、低い結果となった。	・基本的な知識の習得は見られるが、比較や分類、条件の整理といった論理的に思考する経験が不足していると考えられる。「共通点と相違点を整理する」「条件を比較して仮説を立てる」といった論理的思考の型を明示的に指導したり、自分で問いを立てる活動(探究学習)を意識的に取り入れ、課題発見力の育成を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は71.8%で、全国平均と比べて5.1ポイント上回った。 ○赤土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果や問題に対するまとめを基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる問題では、平均正答率が89.3%で全国平均を11.5ポイント上回っている。 ●水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる問題では、平均正答率が63.1%で全国平均を1.1ポイント下回っている。	・実験や観察を基にした予想・説明活動を今後も積極的に活用する。 ・水の状態変化など抽象的な科学概念の理解を深められるよう、図やモデルを活用し、見えない現象を視覚化することで、概念的な理解を支援する。また、具体と抽象を結びつけて考える力を養う指導を意識的に取り入れていく。

宇都宮市立築瀬小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

1 生活習慣について
○●毎日、同じくらいの時刻に起きているかについての肯定的回答率は92.8%で、全国の平均よりも上回っている。また、毎日同じくらいの時刻に寝ている児童も肯定的回答が89.5%であり、こちらも全国の平均よりも上回っている。しかし、朝食を毎日食べていると回答した児童は、79.8%で栃木県、全国より共に下回っている。決まった時刻に寝たり起きたりすることの大切さや規則正しい生活について授業で指導すると共に、朝食を採ることが体や心の健康を保つための一助となることも指導していきたい。

2 自分自身や他人や社会との関わりについて
○先生はよいところを認めてくれていると思うかについての設問では、肯定的回答が97.6%と、栃木県や全国の平均を上回った。今後も「存在を認める、努力を褒める、挑戦へと励ます」指導を行い、児童の自己肯定感の更なる高揚に努めていく。
●困りごとや不安があるとき、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるかについての設問では、肯定的回答が71.4%と、栃木県の平均よりもやや下回った。教育相談では、一人一人と向き合う時間を十分に確保し、事前のアンケートを活用して児童の悩みや不安を引き出せるようにする。また、日々の授業や行事、休み時間の交流など、学校生活全体を通して、児童と教職員の信頼関係を築いていけるよう努めていく。

3 学習について
○家庭学習の時間については、1時間以上と回答した児童が、平日では87%、休日では58.4%で、いずれも全国の平均よりも上回っている。また平日の読書の時間についても、30分以上と回答した児童が41.9%で、全国の平均よりも上回っている。今後も、家庭との連携を図りながら、現在身に付いているこの良い習慣を継続できるようにさせていきたい。
○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の回答では、週3日以上使用している児童の割合が、91.6%と全国平均をはるかに上回っている。今後も、引き続き授業の中で使用する場を設定し、効果的な学習ができるよう取り組んでいきたい。
○「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の肯定的回答率は75%と全国平均・県平均を6.4ポイント上回っている。また、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の肯定的回答率は83.3%、「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」の肯定的回答率81%と、共に全国平均・県平均を約3ポイント上回っている。発表するための工夫についてはもちろんのこと、発表前の課題解決への取り組み方やまとめ方、各教科からの学びの活かし方についてもきちんと身に付けている児童が多いので、今後もさらに意識を高めて取り組ませていきたい。
●「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか」の肯定的回答率は35.7%と全国平均を3.7ポイント下回っている。授業におけるボランティアティーチャーやゲストティーチャーの活用及び休日におけるスポーツや体験活動等の啓発活動等を行うなどして、児童の活動の幅を広げていきたい。

宇都宮市立築瀬小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学ぶ意欲を高めるための学習課題の設定	各教科の特性に応じた資料やICT機器を有効に活用し、児童の興味・関心を高める導入に努めるとともに、教師の問いかけを基に考えさせることで、より深化した学習につなげるための工夫を行っている。	「ICT機器等を活用して、楽しみながら学習を進めることができる」の質問に対する肯定的回答が89.3%だった。今後も、児童の実態に合わせた学習課題の設定や導入の工夫に努めていきたい。
児童同士が学び合える活動の工夫	ICT機器や図書等を効果的に活用するなど、学習内容や発達段階に合わせた学習形態の工夫を行うことで、児童同士が互いに学び合える授業を工夫している。また、ペアやトリオ、グループ学習など、活動形態の工夫を行うことにより、より活発な話し合い活動に努めている。	「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるか」の質問に対する肯定的回答が96.4%と高い結果となったことから、普段の授業において活発な話し合い活動ができていことが分かる。今後も、児童同士の話し合いから深い学びにつなげられるよう、学習形態の工夫に努めていきたい。
各教科の特性を生かした振り返りの工夫	振り返りの視点を示した掲示物を活用し、授業で分かったことや気付いたことを表現できるようにしている。また、それらを児童同士で共有することで新たな気づきにつなげられるようにしている。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」の質問に対する肯定的回答が84.5%だった。今後も振り返りを充実させ、児童同士でも学びや気づきを共有しながら、深い学びにつなげられるようにしていきたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
資料や文章、データから必要な情報を抽出し、自分の言葉で簡潔にまとめることに対して課題が見られる。また、得られた結果から考えられることを読み取る力に対しても課題があることが分かった。	様々な場面での資料の活用	資料や図を活用する場面を意図的に設定し、それらから分かったことや気付いたことを話し合ったり、自分の言葉で簡潔にノートにまとめる活動を取り入れるなど、教科横断的な学習指導を行っていく。また、児童同士で共有することで、互いに学び合い、認め合える環境づくりに努めていく。